

ICT 活用連続講座 第一分科会 参加報告

堺市立福泉中央小学校 藤井澄江

定員40名とのことでしたから、難しかったら途中でリタイアしようと軽い気持ちで申し込みをしたのですが、事前に講師先生からファックスやメールでご連絡をいただき、参加者が7名（実際は9名でしたが）ということがわかり、抜けられない状況であることが判明しました。ですので、片道2時間をかけて重いパソコン持参で、落ちこぼれながらもなんとか3日間通うことができたのかもしれない。



第一日（8/13）

参加者一人一人が自己紹介

- ・担当している子どもたちの様子、そしてこの講座で何をしたいと考えているのかを発表
- ・バラエティに富んだ子どもたちの様子やそれに対する手立てについて、アドバイスをいただきました。

パソコンに「ユーザー補助」という機能があって、マウスやキーボードでの入力の方法についての設定を細かく変更できることを教えていただきました。

マウスの改造（実技）

障害のある子どもたちが触るだけで反応するスイッチを接続できるように、市販のマウスにドリルで穴を開けたり、線をハンダ付けしたりして接続口を取り付ける作業でした。私は、細かい作業に悪戦苦闘で、ほとんど手伝っていただいて完成しました。



第2日(8/14)

何をしたいのかを発表

昨日のアドバイスに従って、2学期からの授業に活かせる「何か」を一人一人作成しましょうということになり、その構想を発表しあいました。コミュニケーションカードを作る人、買い物学習用の教材作りをする人、日課提示用のプレゼンテーション作りをする人など、それぞれの課題を出しました。私は、児童がワンプッシュで場面展開できる絵本を作ることにしました。

教材の作成

スキャナを使って既成の絵本「バナナです」を取り込み、パワーポイントを使ってスライドショーにしました。オートシェイプの吹き出しでセリフを挿入する途中で時間切れになりました。

第3日(8/15)

昨日の制作の結果・途中経過を提示し、2学期の学習にどう活かそうとするのか発表

パワーポイントを効果的に使用してとても上手に仕上げた方や、ボードメーカーでのカード作成が成功した方がありましたが、絵本を作成した私を含めて4名は、音声を入れることが難しいこともあり、不十分な出来上がりでした。でも、その気になればこういう風に教材作成ができるんだということは学習しました。私が必要としているのは、ワンプッシュでページをめくらせることではなくて、児童が自分でマウスを動かして選択肢を選ぶことなのだと思いき、既成の教材ソフトの中でそれに近いマウスの動きを作れるものがあることを教えていただきました。

三日間を通して学んだこと、感じたこと

「ユーザー補助」で、パソコン自体が障害の状況にかなりの対応をしてくれること。

筋ジムの児童が将来必要になるスイッチ類にいろんな種類があること。

堪能な方が作成してくださった「教材集」があって、すぐにも使えそうなこと。(うれしい!)

パワーポイントの使い方ももっと学べたらよかった。でも、何をしたいのか、児童に何をさせたいのかをしっかりとつかんでおかないと駄目なんだという事も分かりました。「発想」「センス」を研ぐことはかなり難しいですね。ご指導いただいた先生方本当にありがとうございました。



ICT活用連続講座 - 2に参加して

羽曳野市立西浦東小学校 山本 伊津子

府養研ニュースでこの連続講座を知り、2学期にパソコンを活用した市の研究授業が当たってしまった私は「何か発見することができるのでは」と思い、藁をもすがる気持ちで参加しました。

1日目は茨木養護学校の大峠先生と情報教育研究部の大杉先生から「自立活動」が新設された課程や意味、特別支援教育の在り方（最終報告）についてお話して下さり、今の養護学校や養護学級で求められていることが分かりました。またロールプレイでは、少し緊張もしましたが、知らない先生方の中で気持ちもほぐれ、貴重な経験もできました。

2日目はパソコンソフト

「ボードメーカー」を使って、コミュニティカードの制作を体験しました。制作方法は、パソコンで必要な絵のカードを取り込み、それをプリントして、ラミネーターをしてから切り取り、最後にマジックテープを付けると出来あがりです。実習ではそれぞれの先生方のアイデアと、子ども達



への想いがいっぱいの素敵なカードがたくさん出来ました。出来上がったカードを同じ講座の先生方同士で交換するなど、実習は大変もり上がることができました。さらに、大杉先生の奥様が手作りのカードフォルダまで頂いて、感激でした。出席されていた 養護学校の先生方からは『学校には「ボードメーカー」があるので、養護学校を利用してください。』という暖かいお言葉も頂きました。日頃から自閉症児とのコミュニケーションでお困りの先生は、一度利用されてはいかがでしょうか？

3日目はK - A B Cの特徴や検査方法など、実物を見ながら解説して頂きました。K - A B Cについて、言葉は聞いたことはあったのですが、実際体験して大変よくわかりました。その後、特殊教育用ソフトウェアの紹介などがありました。午後からは公開discussion で、いろいろな立場からのお話が聞けて参考になりました。

今回の講座は、お盆という3日間でしたが、パソコンやプリンターなどをたくさん用意して頂き、準備はたいへんだったと思います。講師の先生には手をとり足をとりのご指導を受け、研究会の先生方にたいへん感謝しています。ありがとうございました。この講座の成果を生かして、2学期から活動や研究授業も頑張ろうと意欲いっぱいです。

最後に、私ごとですが、「ひかり教室」という養護支援サイトを開設していますので、一度ご覧頂き、ご意見ご感想などお聞かせ下さい。我が校のホームページからもリンクしています。 サイトアドレス <http://www2r.biglobe.ne.jp/~comet-i/>

ICT 活用連続講座 3「個々に対応する映像教材作りを」 講師 廣瀬 正彦 氏
(こ・めでいあセンター)

～デジタルビデオ、デジタルカメラの基本的カメラワークから、PC への取り込み、
編集、加工、オーサリング、製品化まで～ に参加して。

高槻市立第 1 中学校 岡崎あかね



講座 3 に参加して、今まで養護学校の先生とともにカリキュラムを作る機会がなかなか無かったので、今回の講座は、とても新鮮でした。

1 日目：主題の構想を練り、取材することの意味。

まず最初にグループで話し合い、テーマを決め、起承転結を考えに入れてストーリーを決めることから始まりました。

次に実際にデジタルビデオを操作して編集するために、編集ソフトをインストールして動作確認をしました。

ここで制作のねらいをはっきりとし、何を伝えたいのか構想を練るために、ペンと紙で 4 コマ絵コンテを描きました。

この場面で構想をしっかり練ることは、デジタルビデオを使ってカメラワークを定めるときにも、とても必要なものであるということを撮影しながら実感しました。何を写すか、どう写すか、カメラ

ングルは、など最初の構想を常にイメージしながらグループで撮影しあいました。

2 日目：編集

さてデジタルビデオの映像をパソコンで取り込み（キャプチャー）、編集する作業に入りました。トータルで 1 分間のビデオにまとめるので、編集ソフトを使って必要な所、不必要な所を取捨選択し、映像をひとつのエッセンスにまとめる作業です。文字や効果音を取り入れ編集していきます。ここでも、最初の構想をしっかりイメージしながら、効果音や映像におぼれず的確に表現することが大切でした。そしていよいよ CD-RW で VCD 形式に書き込み、発表の準備ができました。



3日目：品評会

参加した者がそれぞれ自分の作品をプレゼンしながら交流し、講師の廣瀬氏が、それぞれにコメントをしながら、品評会は進んでいきました。

同じテーマでもカメラワークや編集の仕方によって、表現の仕方も変化し、情報の伝え方も違ってくるのが、印象的でした。

午後からは、公開ディスカッションでした。テーマは「ICT活用の課題と今後」。それぞれの参加者が一人ずつ自己紹介しながら、普段考えていることや、悩みや希望などをフリートーキングしあい、時間がまたたくまに過ぎ去りました。

普段の授業実践でぶつかる悩みや疑問を相談するのにも遠いと感じていた、心の垣根を少しでも崩すことができ、崩し方が見え、本当に充実した3日間でした。

この3日間をセットするために、講師の先生方を初め、皆様本当にありがとうございました。力が湧いてくる研修でした。（2003.8.15）



ICT講座 - 3 「個々に対応する映像教材作りを」

八尾養護学校 工藤

廣瀬正彦先生のお手伝い兼、研修の受講者として参加させていただきました。パソコンとカメラ撮りはそこそこ慣れているつもりでしたが、デジタルビデオデータを扱ったことがわずかしかなく、ユーリードの「ビデオスタジオ6」を全く知らなかったのが廣瀬先生に聞いたり、木原先生に聞いたりして、かえってご迷惑を掛けてしまいました。

講座はとても楽しく面白く、集中できて内容の濃い3日間でした。初日のカメラワークの説明、長年の蓄積のノウハウを惜しげもなく、わかりやすく教えていただきました。絵コンテの重要性も教えていただきました。これが午後、撮影開始した時、映像作品作りにもっとも大切だとわかりました。みんなであつの絵コンテを見ながら、「ああだった、こうした方がよい」と修整を加えていき、カメラマンも、演技者も皆、絵コンテを再確認してから行動していくのですから。

午後の撮影では5名のグループで私は監督をさせていただきました。我々は一ツのテーマで「信号機の色を見て進む止まるを学習する」というものでした。4人は女優でアシスタントディレクター(AD)、迫真の演技が良かったです。ADとしても、この赤信号は2分です、5秒前から撮りましょうと、優秀でした。絵コンテは1人が作成していて、カメラは3人ほどで交代して撮りました。カメラになった人はみんなそれぞれ「脇を締めてとか」教えられたカメラワークを思い出しながら撮影していました。信号機の大きさは肉眼で見るとテレビ画面で見るときはあまりに小さく見えるので、ズームアップしてもらうことにしました。その時のカメラマンは「ズームより足で寄った方がよいと言われました。」と言われるのですが、道の真ん中までカメラをのぞきながら歩くわけにもいかないので、セオリーをはずしてズームをしてもらうことにしました。どのカメラマンもズームを使用するのは難しかったようです。これは後日の品評会で廣瀬先生はカットでつなぐのが普通ですがこの場合はズームの方が良かったと言って下さいました。

2日目はデジタルデータのパソコンへの取り込み、「ビデオスタジオ6」を用いての編集作業でした。これは省略しますが、パソコンの動作とか能力について限界を感じました。画像がかくかくと、引っかけり、音声がぶつぶつと、途切れてどのパソコンもスムーズではないのです。これはすぐにメモリが足りないのだと思いました。どれも128MB位しかないのです。これでは足りません。Windows 98・SE・Meなどは256MB以上にして、XPは512MB以上にするのが良いと思います。もちろんワープロ、表計算など普通に使っているものは標準で何の問題もありませんが、映像を扱うと、途端に足りなくなるのです。使っているハードが皆ノートパソコンであるからでもあるのです。

デスクトップ型に比べると同じ速さ（CPU）であってもノート型が遅くなるのです。それはグラフィックボード（ビデオボード）の違いです。デスクトップは、より早いグラフィックボードに替えたり、専用メモリを多くしたり出来ますが、ノートはメインボード内蔵であり、メモリも本体メモリを流用しているのです、どうしても遅くなってしまいます。

3日目は品評会で、各グループや個人で内容を考案し撮影して編集したものの発表です。みんなそれぞれ、子供のことを視点に入れた内容となっていました。グループで一つのコンテに基づき撮影した映像でも、編集段階で個人によって、タイトルの付け方、説明文字の挿入、カットつなぎの効果の違いにより、ずいぶん違った印象の作品になっていました。それぞれの作品について廣瀬先生が一つ一ついいに評価を与えて下さいました。撮影の仕方により、またできあがった映像の効果により、教育的効果が違ってくるといってお話をして下さいました。初日の撮影方法と重なるのですが、カメラを出来るだけ固定してゆらゆらと揺れないように、カメラを傾けて撮らないように、「信号」のグループがこうなっていました。）パンニングは出来るだけゆっくりとするなど、基本的なことをそれぞれの作品を評価しながら教えて下さいました。ズームについては出来るだけ使わない方がいいのですが、「信号」のテーマについては、子どもへの教育効果を考えると、あの信号は赤だとかこの信号が青になるのを待つということで、カットつなぎより連続性のあるズームの使用の方が良かったと言って下さいました。

